校長室からこんにちは！

Ｎｏ．５
令和３年８月２０日
発 行：貝塚 敦

や	やるぞ～	ま	まけないぞ～	が	がんばろうぜ～	た	楽しい学校になるように

タブレットは教育の神器となり得るか？

タブレットの活用が本格化しました。新潟市では**「子どもがICTを活用する授業づくり」**が求められています。当校がめざす、**「主体的・対話的で深い学びを実感できる生徒の育成～ICT の活用を通して～」**もまさにそれに合致するものです。

その時々で、タイムリーな指導の重点や方策を設定されると、先生方はみなまじめに研修に励み、何とかせねばならないと頑張ります。もちろん、日々の自己研鑽は我々教師の永遠の責務であり、子どもたちに確かな学力を身に付けさせるためには、必死で頑張らねばならないのは当然ではあるのですが・・・・・・・・・・・・・。

さて、私が見るお気に入りのテレビ番組ベスト３は、①『笑点』・②『人志松本のすべらない話』・③『お宝！なんでも鑑定団』です。特に②『人志松本のすべらない話』には、授業づくりにプラスになる要素があってとても参考になります。

授業は、生徒に興味・関心を喚起した展開内容であることが肝要です。砕けて言えば、授業は面白いものであってほしいものです。そのための要素として、生徒と教師の「共感」と、教師サイドの「フリオチ」のテクニックが不可欠です。「フリオチ」とは、打ち上げ花火に例えるなら、花火の導火線に火を点けると火が線に伝わって火薬に引火し、ドーンと花火が打ち上げられる。この「導火線」が「フリ」で、「火薬」が「オチ」です。

授業で言えば、「フリ」が「学習課題」で、「オチ」が「まとめ」とでも言えるでしょうか。

『人志松本のすべらない話』に出てくる芸人の、「フリオチ」はまさに絶妙です。

※ ※

「これほんのちょっと前の話なんですけど、後輩とかとお酒飲んで酔っ払って家に帰ってきたんですよ・・・・・」（お～、今日は一体何の話なんだ・・・・・、これは授業で言えば『導入』か？）

「郵便受けに、ガス代を何ヶ月も滞納していているため、明日支払わないとガスが止められるという通知が来てたんで、明日こそ支払いを忘れないために、寝る前に、メモ用紙をちぎってボールペンで『ガス代忘れない』と書いて、テーブルの上に財布でおさえて置いて、酔いつぶれてそのまま寝たんですよ。」

（そしたらどうなったんだろうか？　　お～、これが今日の『学習課題』なのかなあ？）

「朝起きたら、奥さんの様子がいつもと変でやたらと不機嫌な感じで・・・・・・奥さんから『昨日、お楽しみやったんだね。“がすよ”って女だれなのよ。」

（えー、これが「まとめ」ですか？　“がす代”なんて名前の女性いるんですか？。）

＜ほっしゃん　の　『ガス代』から＞

※ ※

そして私はこう思うのです・・・・・・・・・・・・・・・・

「授業」こそが学校の生命線です。しかし、どんなにGIGAスクール推進と言えども、機械はあくまで道具に過ぎず、ICT活用は手段であって目的ではあらず。

教育上の「流行」が具体的な内容になればなるほど、そのことに囚われ縛られ、本質を見失う場合があります。木を見て森を見ずの授業であってはならない。

授業をするのは生身の人間。その先生の個性・人間性・全人格が問われます。私は、テスト結果よりも、「その先生の授業が好き」と生徒に言われることが一番だと思います。